



Title	スウェーデン語における ilska <怒り>のメタファーについて
Author(s)	南澤, 佑樹
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2016, 2015, p. 57-66
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/57322">https://doi.org/10.18910/57322</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# スウェーデン語における *ilska* 〈怒り〉 のメタファーについて

南澤 佑樹

## 1. はじめに

本稿では、スウェーデン語の *ilska* 〈怒り〉<sup>1</sup> のメタファーについて取り上げる。スウェーデン語において怒りを表す語は *ilska* や *vrede*, *raseri* などが存在するが、今回は *ilska* に焦点を絞り分析を行う。感情のメタファーに関しては、これまで様々な言語において分析が行なわれているが、スウェーデン語に関するものは極めて少ない。したがって本稿では、スウェーデン語における感情のメタファー研究のための基礎調査として、コーパスから怒りを表すメタファー表現を可能な限り収集し、スウェーデン語においてどのようなメタファーが怒りの感情に対して用いられるのかについて見ていきたい。

本稿の構成は以下の通りである。まず第2章では先行研究を確認する。先行研究では主にコーパスに基づくメタファー研究について概観したい。続く第3章では、コーパスより抽出されたスウェーデン語のメタファーを取り上げ、基本的に Kövecses (1990, 1998) によって挙げられているメタファーにしたがって分類を行う。これにより、比較的規模の小さなコーパスを用いた場合においても多様なメタファー表現を収集することが可能であることを示したい。また、同時にメトニミーについても取り上げる。最後に第4章を本稿のまとめとしたい。

## 2. コーパスに基づく感情のメタファー研究

感情のメタファーに関しては、Lakoff (1987) による怒りのメタファーをはじめとしてこれまでに概念メタファー理論の枠内において数多くの研究が行われてきた (Kövecses 1986, 1990, 2000, 2005, Lakoff and Johnson 1980 etc.)。特に Kövecses の一連の研究では、怒りの他にも愛や恐れなど様々な感情が取り上げられており、感情概念に概念メタファーや概念メトニミーが関与していることが様々な用例に基づいて示されている。しかしながらこれらの分析の多くは内省データに基づいて行われており、コーパスではほとんど出現しないような例が扱われているといった批判もなされている (Deignan 2005: 94-96)。この点について Deignan (2005: 96) は、研究者の直感によって作られた表現とコーパスで最も頻繁に現れる表現では違いが見られると述べ、コーパスに基づく分析の必要性を指摘している。このことから最近では感情のメタファー研究に対してコーパスを用いた分析 (Omori 2008, 2012, Stefanowitsch 2004, 2006b etc.) も盛んに行われるようになってきている。しかしながら、コーパスに基づくメタファー研究に関しても重大な問題点が指摘されている。例えば Stefanowitsch (2006a: 1-2) は、メタファー写像が特定の言語表現と必ずしも結びついていないわけではないという理由から適切なメタファー表現をコーパスの中から抽出することが極めて困難であると述べている。

以上の問題点に対して Omori (2008) は検索対象を “a flood of joy” のような “NATURAL PHENOMENA of EMOTION” 型 (以後 N of E 型) の表現に限定することでコーパスから効率的にメタファーを抽出している<sup>2</sup>。またそれらのコーパスから抽出したデータに基づき、最も一般的な感情のメタファーを THE EMOTIONS ARE FLUIDS IN A CONTAINER とする主張 (Kövecses 1990: 146) や、感情のプロトタイプを anger, fear, sadness とする主張 (Kövecses 2000: 3-4) に対し反論を行っている。しかしながら、以上の分析法に関しても、分析対象があまりに限定されてしまっている (Kövecses 2008: 202)、あるいは他言語との比較対象が困難であるといった問題点を指摘することができる。

さて、同様の問題点に対し Stefanowitsch (2004, 2006b) は Omori (2008) とは異なる方法を提案している。Stefanowitsch (2006b: 65-66) が述べるように、メタファー表現は根源領

<sup>1</sup> 本稿では、スウェーデン語に対する日本語訳を〈〉で囲んで示す。また、本稿で引用する例文において分析の対象となる語句には下線を施す。

<sup>2</sup> 厳密には、“[source-domain nominal] + of + emotion/emotions/feeling/feelings” という形式でメタファーを抽出し、この形式では NATURAL PHENOMENA を根源領域に取るメタファーが最も多いということを確認した上で調査を行っている (Omori 2008: 135-136)。

域に属する語と目標領域に属する語の両方を含む表現、及び根源領域に属する語のみを含む表現に分類される。Stefanowitsch は、以上の分類を踏まえ、根源領域に属する語と目標領域に属する語の両方を含むメタファー表現をメタファーパターン (Metaphorical pattern)<sup>3</sup> と呼び、このメタファーパターンを分析対象とすることで感情のメタファーのような目標領域志向的な研究 (target-domain oriented studies) が可能になると述べている (2006b: 65-66)。さらに、この手法によってメタファーを量的に分析することが可能になるという利点も挙げている (2006b: 66)。この分析法においてもコーパスから全てのメタファー表現を抽出することは不可能であるが、Stefanowitsch (2006b) は、Kövecses (1998) で挙げられているメタファーとの比較を行うことで、メタファーパターンのみを分析対象とした場合でも十分なデータが得られることを示している。したがって、本調査においてもメタファーパターンを分析対象とする。

### 3. スウェーデン語における怒りのメタファー

本稿で取り上げるのは、スウェーデン語における怒りのメタファーである。感情のメタファーに関する研究はこれまで様々な言語で行われているが、スウェーデン語を対象とする分析はあまり行われていないと思われる。一例を挙げると、Gulz (1992) は日本語、英語、スウェーデン語の観点から、怒りと悲しみに関するメタファーについて述べている。Gulz (1992: 8) によると、怒りのメタファーでは、容器の中の熱、爆発、動物といった概念メタファーがこれら 3 言語に共通して見られる一方で、言語表現の豊かさや含意などには違いが見られる。しかし、Gulz は個々の言語における具体的な表現について触れていない。一方 Zlatev, Blomberg and Magnusson (2012) は、移動動詞を用いて感情を表す形式のメタファー (motion-emotion metaphor) に基づき、英語、スウェーデン語、ブルガリア語、タイ語の間で比較を行っている。スウェーデン語に関しては、27 のメタファー表現が扱われており、少数ながら実例も挙げられている。また Zlatev, Blomberg and Magnusson (2012: 445) は、分析結果からこれら 4 言語では英語とスウェーデン語が最も類似していると述べている。この点に関しては Esenova (2009) も、怒りを馬や容器、植物、子供などとみなすメタファーが英語とスウェーデン語に共通して見られると述べている。これらのことから、スウェーデン語の怒りのメタファーに関しては、英語における怒りのメタファーと類似した結果が得られることが予想される。

以上では、スウェーデン語における感情のメタファー研究についていくつか取り上げたが、スウェーデン語において感情のメタファーに関する研究は現在のところ数少ない。したがって、スウェーデン語において実際にどのようなメタファーが存在するのかに関して本稿でコーパスを用いて検証することは有益であると思われる。

#### 3.1. 分析方法

本稿では、先述したメタファーパターンに基づきスウェーデン語コーパスからメタファー表現を収集して分析を行った。本節ではまず、簡単に本稿でのメタファー表現の収集法について触れておきたい。本稿では、スウェーデン語において怒りを表す名詞 *ilska*<sup>4</sup> を対象語とし、*ilska* を含む全ての文をコーパスから抽出した。その結果、重複を除き合計 390 例の文が得られた。さらに、この 390 例の文からメタファーパターンを手作業で特定し、最後に抽出されたメタファー表現の分類を行った。

<sup>3</sup> 以下の例文では、a. の文がメタファーパターンを含む文であり b. の文にメタファーパターンは含まれない。

- a. Your *claims* are indefensible. (ARGUMENT IS WAR)
- b. He is slowly gaining ground with her. (LOVE IS WAR)

(Stefanowitsch 2006b: 65-66)

なお、Omori (2008, 2012) が分析対象としている N of E 型のメタファー表現は根源領域に属する語と目標領域に属する語の両方を含んでいるため、これらもメタファーパターン (の一部) に焦点を絞った分析であると言える。

<sup>4</sup> 名詞 *ilska* は未知形 *ilska*、既知形 *ilskan* と変化する。

なお、本稿では PAROLE コーパス<sup>5</sup>を用いたが、このコーパスは BNC や COCA のような英語コーパスと比べて小規模なコーパスであると言える。しかしながら、PAROLE コーパスのような小さなコーパスにおいても、メタファーパターンを網羅的に見ていくことで多様なメタファー表現が収集可能であることを以下の節で示していきたい。

### 3.2. 分析結果

3.2.では、実際の分析結果について見ていきたい。抽出されたメタファー表現の分類の際には、主に Kövecses (1990, 1998) の分類にしたがった。3.2.1.では A HOT FLUID IN A CONTAINER、3.2.2.では A DANGEROUS ANIMAL、3.2.3.では FIRE、3.2.4.では A NATURAL FORCE、3.2.5.ではその他のメタファー、最後に 3.2.6.ではメトニミー的表現を確認する。

#### 3.2.1. ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER

最初に、A HOT FLUID IN A CONTAINER を根源領域とするメタファーについて見ていきたい。Kövecses (2000: 22) は、ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER を中心的な怒りのメタファーとみなしているが、本稿における分析でもこのメタファーに対応する表現は数多く見られた。

##### A HOT FLUID IN A CONTAINER: 36 例 (27 タイプ)<sup>6</sup>

---

*det sjuda av ilska* (it seethe out-of anger), *ilska sjuda* (anger seethe) (2), *ilska koka över* (anger boil over) (2), *ångande av ilska* (steaming out-of anger), *ilska bubbla upp* (anger bubble up) (2), *stigande ilska* (rising anger), *ilska stiga* (anger rise), *full av ilska* (full of anger) (2), *ilska fylla* (anger fill), *explodera av ilska* (explode out-of ilska) (3), *gå i bitar av ilska* (go in piece out-of anger), *utbrott av ilska* (outbreak out-of anger), *få ur sig ilska* (get out-of oneself anger) (2), *inre ilska* (inner anger), *ilska i sig* (anger in oneself), *ilska inom sig* (anger inside oneself) (2), *ilska inuti sig* (anger inside oneself), *vädra ilska* (air anger), *ventilera ilska* (air anger), *X inuti slitits sönder av ilska* (X inside wear out broken out-of anger), *hävda ur sig ilska* (assert out-of oneself anger), *genomsyras av ilska* (permeate out-of anger), *explosiv ilska* (explosive anger), *undertryckt ilska* (suppressed anger), *ge utlopp åt ilska* (give outlet to), *skumma av ilska* (foam out-of anger) (2), *ösa ilska* (pour anger)

---

PAROLE コーパスには、以下のようなメタファー表現を含む例が見られた。

- (1) I staden Sairanbar kokade ilskan över hos några flyktingar.  
〈サイランバルの街では、数人の難民たちが怒りで煮え繰り返っていた。〉
- (2) Getrud känner hur ilska och besvikelse sjuder i henne.  
〈イエートルユドは怒りと失望が彼女の中で沸き立つのを感じている。〉

以上のようなメタファー表現は、Svenska Ordbok (以後 SO) や Natur och Kulturs Svenska Ordbok (以後 NKSO) においても *koka*〈沸く、ゆでる〉や *sjuda*〈沸く〉の項目で取り上げられている。したがって、これらはスウェーデン語において怒りを表す表現としてある程度定着している表現であることが見て取れる。以上で ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER の例を 2 例取り上げたが、このメタファーにはより上位のメタファー THE BODY IS A CONTAINER FOR THE EMOTIONS (Kövecses 1990: 53) が存在する。

- (3) Och ilskan fyllde Johan ännu mer när han såg Allan gå över gården.  
〈そしてアランが庭を横切るのを見た時、ヨーハンは更に怒りで満たされた。〉

---

<sup>5</sup> PAROLE コーパスとは、小説、日刊紙、雑誌、インターネット上のテキストが含まれる EU のプロジェクト PAROLE で作られたスウェーデン語コーパスである (梅谷 2015: 164)。なお、スウェーデン語のコーパスに関しては、清水 (2013) 及び梅谷 (2015) に詳しい記述が見られる。

<sup>6</sup> 以下の表では、動詞を全て原形の形で示す。また、後ろに括弧で示した英語訳は逐語訳であるため、英語表現としては不自然な場合がある。さらに、表の中の数字はそのメタファー表現がコーパスに現れた回数を示しているが、コーパスに現れた回数が 1 度の場合は明記しない。

さて、Kövecses (1990: 54) は、ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER のような中心的なメタファーには豊かなメタファー的含意 (metaphorical entailment) が存在すると述べているが、スウェーデン語においても ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER には様々なメタファー的含意が見られる。

WHEN THE INTENSITY OF ANGER INCREASES, THE FLUID RISES (Kövecses 1990: 54)

(4) Efter ett antal försök och med stigande ilska lämnade hon till slut över luren till en amerikansk vän.<sup>7</sup>

<何度も試した後、頭に来て彼女はとうとう受話器をアメリカ人の友人に渡した。>

WHEN ANGER BECOMES TOO INTENSE, THE PERSON EXPLODES<sup>8</sup> (Kövecses 1990: 55)

(5) Jag höll på att explodera av ilska och besvikelse.

<私は怒りと失望で爆発しそうだった。>

ANGER CAN BE LET OUT UNDER CONTROL (Kövecses 1990: 55)

(6) En grupp på 40 personer ... samlades på måndagen utanför rådhuset för att vädra sin ilska mot borgmästaren Carjev Zera.

<40 人のグループが月曜日にカリエヴ・ゼラ市長に対して怒りを表明するために市庁舎の外に集まった。>

本節では、ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER に関して例を挙げながら確認を行った。英語の場合と同じく、スウェーデン語においても A HOT FLUID IN A CONTAINER を根源領域とするメタファーは数多く見られた。上記のように、怒りの様々な側面を表すメタファー表現がこのメタファーにおいて見られることから、スウェーデン語においても A HOT FLUID IN A CONTAINER メタファーを怒りの中心的なメタファーとみなすことが可能であると思われる。

### 3.2.2. ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL

前節では ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER について確認した。本節では、怒りを危険な動物とみなす ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL のメタファーについて見ていく。Kövecses (1990: 62) は、ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL を主要なメタファー (principal metaphor) の一つとして数えている。スウェーデン語においても以上のメタファー表現をコーパスから数多く収集することができた。

#### A DANGEROUS ANIMAL: 47 例 (26 タイプ)

*vråla av ilska* (roar out-of anger), *gnissla tänder av ilska* (squeak teeth out-of anger), *skära tänder av ilska* (grind one's teeth out-of anger), *skita på sig av ilska* (shit on oneself out-of anger), *ropa av ilska* (cry out-of anger), *skrika av ilska* (shout out-of anger) (3), *uppge ett skri av ilska* (give a shriek out-of anger), *utstöta små hickande rop ut av ilska* (utter small hiccuping cry out of anger), *klampa ut* (av ilska) (tramp out (out-of anger)), *utlösa ilska* (release anger), *stänga inne ilska* (shut in anger), *tygla ilska* (rein anger), *väcka ilska* (wake anger) (16), *uppväcka ilska* (awaken anger), *kläcka ur ilska* (hatch out-of anger), *ilska tränga* (anger press), *ilska lägga sig* (anger lay oneself) (2), *uppamma ilska* (foster anger), *ilska ruva* (anger brood), *växa ilska* (grow anger) (4), *det växa ilska* (it grow anger), *gen om ilska* (gene about anger), *ilska slå ner i ngn* (anger beat down in someone), *ilska härska* (anger rule), *kontrollera ilska* (control anger), *mötas med ilska* (meet with anger)

Stefanowitsch (2006b) は、怒りに対して ANGER IS A SLEEPING ORGANISM (2006b: 76)

<sup>7</sup> 特に明記のない場合、例文は全て PAROLE コーパスから引用したものである。

<sup>8</sup> コーパスでは、噴火のようなより具体的な爆発を表すメタファー表現の例も見られた。

... annars skulle jag inte stått ut med hans kast mellan snällhet och utbrott av ilska och förtvivlan.  
<そうでなければ、優しさと、怒りと失望の噴出の間で揺れ動く彼の急激な変化に耐えられなかっただろう。>

や INTENSITY OF OF EMOTION IS SIZE (2006b: 92) などのメタファーを挙げているが、これらは Kövecses (1990) の中では ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL として扱われており、本稿でも Kövecses (1990) の分類にしたがう。また Kövecses (1998) などでは ANGRY BEHAVIOR IS AGGRESSIVE ANIMAL BEHAVIOR、ANGER IS A CAPTIVE ANIMAL、ANGER IS AN OPPONENT IN A STRUGGLE、ANGER IS A SUPERIOR が異なるメタファーとして扱われているが、これらのメタファーは全て怒りを生物とみなしているという点で共通しており、分類が困難な例も少なくない。したがって本稿では、これらのメタファーを全て ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL の一例として扱う<sup>9</sup>。

このメタファーに関して、コーパスでは以下のような表現が見られた。

(7) Det är klart att det växte ilska och uppror inom mig.

〈私の中で怒りと反感が大きくなっていったのは明らかである。〉

(8) Men nu var jag så fruktansvärt sårad att jag bara inte kunde stänga inne min ilska och förtvivlan.

〈でもそれで私はひどく傷ついていたので、ただ自分の怒りと絶望を閉じ込めておくことができなかつたのです。〉

(9) Nu gnisslade han bokstavligt tänder av ilska.

〈その時彼は文字通り怒りで歯ぎしりしていた。〉

(10) Besparingsförslagen har väckt ilska bland lärarna på skolan.

〈経費削減の提案は学校の先生達の間で怒りを呼び起こした。〉

Esenova (2009) は、怒りを馬とみなすメタファーがスウェーデン語において見られることを指摘し、*tygla sin vrede* 〈怒りを制御する〉という例を挙げている。本調査においても *tygla sin ilska* 〈怒りを制御する〉という表現がコーパスから抽出された。

(11) Han hade svårt att tygla sin ilska då han fick höra vad som hänt.

〈彼は何が起こったのか聞いた時自身の怒りを抑えるのが難しかった。〉

以上のように、怒りを生物としてみなすメタファーはスウェーデン語において数多く見られた。コーパスから収集した用例の数を見る限り、このメタファーは先の ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER と同程度に用いられている。したがって、メタファー表現の豊富さという観点を考慮に入れると、ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL は ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER と並びもう一つの怒りの中心的なメタファーであると考えられる。

### 3.2.3. ANGER IS FIRE

本調査において、先に挙げた 2 種類のメタファーに次いで数多く見られたのは ANGER IS FIRE であった。本調査で収集できたメタファーパターンは以下の 9 タイプである。

#### FIRE: 10 例 (9 タイプ)

---

*tändmedel för ilska* (igniter for anger), *flimrande ilska* (flickering anger), *uppblossande ilska* (flaring anger), *uppflammande ilska* (flaming anger), *bränna av ilska* (burn out-of anger), *pyrande ilska* (smouldering anger), *ilska pyra* (anger smoulder), *det pyra av ilska* (it smoulder out-of anger), *osa av ilska* (smoke out-of anger) (2)

---

Kövecses (1990: 58) は、ANGER IS FIRE をより一般的なメタファー ANGER IS HEAT が個体 (solids) に適用された場合に生じるものと述べている。スウェーデン語においても怒りを火とみなすメタファー表現はコーパスにおいて数多く見られた。

<sup>9</sup> ANGRY BEHAVIOR IS AGGRESSIVE ANIMAL BEHAVIOR については Kövecses (1990: 63) 自身、ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL と同じメタファーの異なる事例であると述べている。

- (12) Självt blir jag ofta överraskad av min sekundsnabbt uppblossande ilska...  
 <私は自分の瞬時に燃え上がる怒り...によく自分でびっくりする。>
- (13) Getrud blundar och känner en flimrande ilska under ögonlocken.  
 <イェートルユドは目を閉じてまぶたの下でゆらめく怒りを感じている。>

### 3.2.4. ANGER IS A NATURL FORCE

以上に挙げたメタファーに次いでコーパスより数多く収集されたのは怒りを自然の力とみなすメタファーであった。

#### A NATURAL FORCE: 6 例 (6 タイプ)

---

*moln av ilska* (cloud of anger), *en vild fors av ilska* (a wild waterfall of anger), *ilska pressa sig upp i mig som en svallvåg* (anger press oneself up in me as a surge), *gurglande ilska* (gurgling anger), *ilska skölja upp* (anger rinse up), *ilska kanaliseras* (anger canalize)

---

Kövecses (1990:161-163) は、このメタファーを THE EMOTIONS ARE NATURAL FORCES (STORMS, WAVES, FLOODS) という形で様々な感情を表す主要なメタファー (major metaphor) として取り上げている<sup>10</sup>。怒りを自然の力とみなすメタファー表現の中には以下のような例がコーパスで観察された。

- (14) Medan ilskan pressade sig upp i mig som en svallvåg, tvingades jag stå tyst...  
 <怒りが返し波のように私の中に押し寄せて来ていた一方で、私は黙って立っているのをえなかった。>
- (15) Efter en stund kommer orden i en vild fors av ilska och knäsvagt stapplande mod.  
 <しばらく後に、激流のような怒りと意気地のない今にもくじけそうな勇気の中で言葉が押し寄せてくる。>

先行研究でも確認したように、Kövecses は最も一般的な感情のメタファーを THE EMOTIONS ARE FLUIDS IN A CONTAINER (1990: 146) としている。それに対して Omori (2008) は、コーパスよりメタファー表現を収集し、感情のメタファーにおける主要な根源領域を NATURAL PHENOMENA (2008: 134) としている。さらに、感情の制御不可能性を最も特徴付けるメタファーを A HUGE MASS OF MOVING WATER IN THE NATURAL WORLD (2008: 137) とし一連の Kövecses の主張に対して批判を行っている。本稿におけるスウェーデン語の怒りのメタファーに関する調査では、最も中心的であった根源領域は A HOT FLUID IN A CONTAINER 及び A DANGEROUS ANIMAL であったが、怒りを自然の力とみなすメタファー表現に関しても一定数が観察された。

なお、Omori (2008, 2012) が分析対象としたのは N of E 型のメタファーパターンであるが、この形式はスウェーデン語では N av E という形式に相当する。本調査では、コーパスから抽出された N av E 型のメタファー表現は *en vild fors av ilska* <激流のような怒り> のみであったため、スウェーデン語では、英語と比較してこの形式の表現が生産的でないことが考えられる。しかしながら、この *en vild fors av ilska* というメタファー表現は Omori (2008) の主張する A HUGE MASS OF MOVING WATER IN THE NATURAL WORLD に分類されるものである。したがって、より大規模なコーパスを用いて調査を行った場合、より多くの Omori (2008) の主張に沿うメタファーがスウェーデン語において観察される可能性がある。

### 3.2.5. その他のメタファー

本稿における調査では、以上に示したものの他にも様々なメタファーが観察された。Esenova (2009) は、スウェーデン語において怒りを植物とみなすメタファーが見られると述べ、*ett frö av ilska* <怒りの種> のような例を挙げている。本稿での調査においても、コ

<sup>10</sup> Kövecses (1986: 118-119) では ANGER IS A STORM が挙げられており、Kövecses (1998: 129) ではこのメタファーは ANGER IS A NATURAL FORCE という形で挙げられている。

コーパスから以下のような例が見つかった。

(16) *Getrud känner hur sysslolösheten sår snabbväxande frön av ilska, leda.*

<イェートルユドは、暇を持て余すことが急速に増大する怒りと嫌気の種を植え付けるのを感じている。>

ところでスウェーデン語では、動詞 *växa* <育つ> が怒りを表す際に用いられる。この *växa* という動詞は、以下の例を見ても分かるように、生物と植物の両方に用いることが可能である。

(17) *Vad du har vuxit sedan jag såg dig sist! (SO)*

<私が最後に見てから君はまあなんと大きくなったの！>

(18) *Det växer palmer på Kreta.* <クレタ島にはヤシの木が生育している。> (NKSO)

(19) (=7) *Det är klart att det växte ilska och uppror inom mig.*

したがって本稿では、動詞 *växa* を含むメタファー表現は A DANGEROUS ANIMAL に分類したが、これらを植物のメタファーに分類することも可能であると思われる。

次に、怒りを表すために用いられるメタファーとして SELF CONTROL IS BEING IN ONE'S NORMAL LOCATION (Lakoff and Johnson 1999: 274) について見ておきたい。これは英語における “I was beside myself” などに見られるメタファーであり、Kövecses (1990: 153, 2000: 38) などでも取り上げられている。このメタファーでは、自己 (The Self) は容器とみなされ主体 (The Subject) は通常の場合容器としての自己の内側にとどまっているが、制御を失った場合には主体が自己という容器から出てくるとみなされる。このメタファーは英語に特有のものではなくスウェーデン語でも *vara / bli ifrån sig (be / become away from oneself)* 及び *vara utom sig (be outside oneself)* などの表現が見られる。以下の文はコーパスで観察された例である。

(20) *Hon var alldeles ifrån sig av ilska.* <彼女は怒りで完全に我を忘れていた。>

最後に、ANGER IS INSANITY メタファーの例を挙げておきたい。本稿における調査では怒りを狂気とみなすメタファーは以下の 1 例であった。

(21) *Det blev alldeles svart för ögonen, jag trodde jag skulle svimma, jag blev galen av ilska!*

<目の前が真っ暗になって、気絶するかと思った、怒りでおかしくなったわ！>

### 3.2.6. メトニミー的表現

ここまでスウェーデン語コーパスから収集した怒りを表すメタファー表現について実例を挙げながら確認を行った。最後に本節では怒りをメトニミー的に表す表現に関して見ておきたい。

Kövecses (1990, 2000, 2005 etc.) は、一連の研究の中で感情概念の形成には概念メタファーだけでなく概念メトニミーも深く関連していることを指摘している (例えば Kövecses 1990: 4)。したがって本稿では、コーパスより怒りを表すメトニミー表現の収集も試みた。しかし、メタファーの場合と同様、メトニミー表現は目標領域 (本稿における感情) に属する語句を必ずしも含んでいるとは限らないため、コーパスから全てのメトニミー表現を収集することは現段階ではほぼ不可能である。これを踏まえ、本稿では先のメタファーパタンの方法を踏襲し、手作業でコーパスからメトニミー表現を特定した。本調査で抽出した表現には全て名詞 *ilska* が含まれており、厳密な意味でのメトニミーとは言えないかもしれないが、これらの表現がメトニミー的に感情を表していることは明らかである<sup>11</sup>。な

<sup>11</sup> Kövecses (1990: 52) など “She was scarlet with rage.” や “He got red with anger.” のような表現をメトニミーとして取り上げている。以降これらの表現を厳密にはメトニミーとは言えないことから「メトニミー的表現」と呼ぶ。



お、メタファーパタンの方法を用いて感情を表すメトニミー的表現を抽出する試みは管見の限りほとんど行われていないため、この方法により数多くのメトニミー的表現も収集することが可能であることを示したい。

本調査で観察されたメトニミー的表現は以下の通りである。

#### メトニミー的表現：29例（24タイプ）

*vit (i ansiktet) av ilska* (white (in face) out-of anger) (3), *röd (i ansiktet) av ilska* (red (in face) out-of anger) (2), *högröd av ilska* (bright red out-of anger), *tomatröd av ilska* (tomato red out-of anger), *rodna av ilska* (turn red out-of anger), *svart i synen av ilska* (black in the sight out-of anger), *svart för ögonen av ilska* (black for the eyes out-of anger), *svettas av ilska* (sweat out-of anger), *svimma av ilska* (faint out-of anger), *släppa fram gråten av ilska* (let go forward crying out-of anger), *gråtfärdig av ilska* (be ready to cry out-of anger), *ngns gråt växa sig i ilska* (someone's anger grow oneself in anger), *gråta i ilska* (cry in anger), *gråta ut av ilska* (cry out of anger), *tårar strömma av ilska* (tears stream out-of anger), *hoppa jämfota av ilska* (jump with both feet out-of anger) (3), *stirra med sitt djävulsansikte förvridet av ilska* (stare with one's devil's face distorted out-of anger), *stampa foten av ilska* (stamp the foot out-of anger), *lyfta näven (av ilska)* (lift fist (out-of anger)), *kasta sig i varandras armar ut av ilska* (throw oneself in each other's arms out of anger), *ngns ögon lysa av ilska* (someone's eyes shine out-of anger), *ilska under ögonlocken* (anger under the eyelids), *ngns röst darra av ilska* (someone's voice tremble out-of anger), *ngns röst skälva av ilska* (someone's voice shake out-of anger)

Kövecses (2010: 108) は、感情に関連する概念メトニミーには CAUSE OF EMOTION FOR THE EMOTION と EFFECT OF EMOTION FOR THE EMOTION という 2つのタイプがあるとした上で、後者のメトニミーがより一般的であると述べている。さらに Kövecses によると、メトニミー-EFFECT OF EMOTION FOR THE EMOTION にはより下位の具体的なメトニミーが存在し、これらは (22) や (23) のような生理的反応 (physiological responses)、(24)、(25) のような行動的反応 (behavioral responses)、(26)、(27) のような表出的反応 (expressive responses) に分類される。

(22) Tomatröd av ilska reste han sig och skrek.

〈彼は怒りでトマトのように真っ赤になりながら、立ち上がって叫んだ。〉

(23) (=21) Det blev alldeles svart för ögonen, jag trodde jag skulle svimma, jag blev galen av ilska!

(24) Staffan står bredvid pappan och hoppar jämfota av ilska.

〈スタッファンはお父さんのそばに立って怒りで地団駄を踏んでいる。〉

(25) Nedför deras ansikten strömmade tårar av sorg och vanmäktig ilska.

〈悲しみと無力な怒りから、涙が彼らの顔をつたった。〉

(26) Hans röst darrade av undertryckt ilska. 〈彼の声は抑圧された怒りで震えていた。〉

(27) Hennes ögon lyste fortfarande av ilska och beslutsamhet.

〈彼女の目は怒りと決意で依然として輝いていた。〉

コーパスから収集したメトニミー的表現の中には、*svettas av ilska* 〈怒りで汗をかく〉や *rodna av ilska* 〈怒りで赤くなる〉など体温の上昇や顔の紅潮によって怒りを表す表現が数多く存在する。そして Lakoff (1987: 383) などでも述べられているように、これらのメトニミーに動機付けられているのが先に見た ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER や ANGER IS FIRE のようなメタファーである。さらに *ngns röst darra / skälva av ilska* 〈怒りで声が震える〉のような表現<sup>12</sup>も、震えという事態が容器の沸騰状態を表すという点で ANGER IS A HOT FLUID IN A CONTAINER の動機付けとなっていると思われる。この他にも *lyfta näven* 〈拳を振り上げる〉や *stampa foten* 〈地団駄を踏む〉のような表現は ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL のメタファーを動機付けていると思われる。これら

<sup>12</sup> Svenska Akademiens Ordbok (SAOB)にも *darra af ilska* 〈怒りで震える〉のような例が見られる。

のことを踏まえると、感情のメタファーの多くはメトニミーに動機付けられていると考えることができる。Ungerer and Schmid (1996: 136) は、感情を表すメタファー及びメトニミーには補完原理が働いており、メタファーに依存する（よってメトニミーの少ない）感情とメトニミーに依存する（よってメタファーの少ない）感情が存在するらしいと述べている。しかしながら、多くの感情のメタファーがメトニミーに動機付けられているという説が正しいとするならば、メタファーとメトニミーの間には反比例的な関係ではなく以下の図によって表されるような関係が見られることが予想される。

	概念メトニミー 多	概念メトニミー 少
概念メタファー 多	○	×
概念メタファー 少	○	○

ただし、この点に関しては今後さらに考察を行っていく必要がある。

#### 4. まとめ

本稿では、今後スウェーデン語における感情のメタファーの研究を行っていくための基礎調査としてスウェーデン語 PAROLE コーパスから怒りを表すメタファー表現及びメトニミー的表現をメタファーパターンに基づき収集した。メタファーパターンに基づく方法を用いることで、比較的小規模なコーパスであっても数多くのメタファー、メトニミーを収集することができることについて確認することができた。また本調査では、先行研究の主張通り、スウェーデン語と英語の怒りのメタファーについてはかなりの共通点が見られた。本稿では、スウェーデン語における怒りのメタファー、メトニミー表現に絞って調査を行ったが、今後他の感情を含めさらなる調査を行っていききたい。またスウェーデン語と英語における感情のメタファーに関して、共通点だけでなく相違点も探っていきたい。

#### 〈参考文献〉

- Deignan, Alice. 2005. *Metaphor and Corpus Linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.
- Esenova, Orazgozel. 2009. "Anger metaphors in the English language." In Heli Tissari (ed.), *Approaches to Language and Cognition (Studies in Variation, Contacts and Change in English 3)*. Helsinki: University of Helsinki.  
(=<http://www.helsinki.fi/varieng/series/volumes/03/index.html>)
- Gulz, Agneta. 1992. *Conceptions of Anger and Grief in the Japanese, Swedish and American Cultures: The Role of Metaphor in Conceptual Processes*.  
(= <http://www.lucs.lu.se/LUCS/007/LUCS.007.pdf>)
- Kövecses, Zoltán. 1986. *Metaphors of Anger, Pride and Love: A Lexical Approach to the Structure of Concepts*. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.
- Kövecses, Zoltán. 1990. *Emotion Concepts*. New York: Springer-Verlag.
- Kövecses, Zoltán. 1998. "Are there any emotion-specific metaphors?." In: Angeliki Athanasiadou and Elzbieta Tabakowska (eds.), *Speaking of Emotions. Conceptualization and Expression*, 127-151. Berlin / New York: Mouton de Gruyter.
- Kövecses, Zoltán. 2003 (2000). *Metaphor and Emotion: Language, Culture, and Body in Human Feeling*, First Paperback Edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kövecses, Zoltán. 2005. *Metaphor in Culture: Universality and Variation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kövecses, Zoltán. 2008. "On Metaphors for Emotion: A Reply to Ayako Omori (2008)." *Metaphor and Symbol* 23 (3), 200-203.
- Kövecses, Zoltán. 2010. *Metaphor: A Practical Introduction*. Second Edition. Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, George. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago

- Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1999. *Philosophy in the Flesh: the Embodied Mind and its Challenge to Western Thought*. New York: Basic Books.
- NKSO (= Köhler, Per Olof & Ulla Messelius. 2001. *Natur och Kulturs Svenska Ordbok*. Stockholm: Natur och Kultur.)
- Omori, Ayako. 2008. "Emotion as a Huge Mass of Moving Water." *Metaphor and Symbol* 23 (2), 130-146.
- Omori, Ayako. 2012. "Conventional Metaphors for Antonymous Emotion Concepts." In: Paul Wilson (ed.). *Dynamicity in Emotion Concepts (Łódź Studies in Language 27)*, 183-204. Frankfurt am Main: Peter Lang.
- SAOB (= *Svenska Akademiens Ordbok*. (= <http://g3.spraakdata.gu.se/saob/>))
- 清水育男. 2013. 「スウェーデン語の情報が得られる電子媒体－辞書を中心に－」, 『IDUN』 20号, 181-198. 大阪: 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻デンマーク語・スウェーデン語研究室.
- SO (= Svenska Akademien. 2009. *Svensk ordbok*. Stockholm: Norstedts.)
- Språkbanken (= <http://spraakbanken.gu.se/>)
- Stefanowitsch, Anatol. 2004. "HAPPINESS in English and German: A metaphorical-pattern analysis." In: Michel Achard and Suzanne Kemmer (eds.). *Language, Culture, and Mind*, 134-149. Stanford: CSLI.
- Stefanowitsch, Anatol. 2006a. "Corpus-based approaches to metaphor and metonymy." In: Anatol Stefanowitsch and Stefan Th. Gries (eds.). *Corpus-Based Approaches to Metaphor and Metonymy (Trends in Linguistics. Studies and Monographs 171)*, 1-16. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Stefanowitsch, Anatol. 2006b. "Words and their metaphors: A corpus-based approach." In: Anatol Stefanowitsch and Stefan Th. Gries (eds.). *Corpus-Based Approaches to Metaphor and Metonymy (Trends in Linguistics. Studies and Monographs 171)*, 63-105. Berlin: Mouton de Gruyter.
- 梅谷綾. 2015. 「コーパス検索システム Korp の基本使用方法－現代スウェーデン語コーパスを中心に－」, 『IDUN』 21号, 161-178. 大阪: 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻デンマーク語・スウェーデン語研究室.
- Ungerer, Friedrich and Hans-Jörg Schmid. 1996. *An Introduction to Cognitive Linguistics*. London and New York: Longman. (= F. ウンゲラー・H. -J. シュミット. 池上嘉彦ほか訳. 1998. 『認知言語学入門』. 東京: 大修館書店. )
- Zlatev, Jordan, Johan Blomberg and Ulf Magnusson. 2012. "Metaphor and subjective experience: A study of motion-emotion metaphors in English, Swedish, Bulgarian, and Thai." In: Ad Foolen, Ulrike M. Lüdtke, Timothy P. Racine and Jordan Zlatev (eds.). *Moving Ourselves, moving Others: Motion and emotion in intersubjectivity, consciousness and language*, 423-450. Amsterdam: John Benjamins.